

## 富士紀行（17） 富士登山競争

「須走」という地名の由来については、2説あるようだ。大日本地名辞書には、「須走とは砂走りの謂にて富士山破裂の時、欄砂飛灰の殊に多き地とす」とあって、砂走りから転訛したものとする説。駿河記には、須走、直走りの訓略也としており、富士山を真っ直ぐに走るという意味であるとしている。（「続ふるさとみいつけた」御殿場青年会議所から引用）

富士登山はのんびり、周りの景色を楽しみながら或いは友達とダベリながら体を順応させながら時には途中の山小屋に宿泊しながら登るのが通常である。それを好きこのんで走って登ろう、そして競争しようと言う登山競争が2つある。

「雲海を走る！日本一過酷なレース」と呼ばれる「富士登山駅伝競走」がその一つであり、富士学校の隷下部隊が参加し、優勝や好成績を収めている。もう一つが、富士登山競争であり、富士地区の自衛官も参加している。先般紹介した秘書班照井3尉もその一人である。

それぞれの概要について紹介しよう。

### 1 富士登山競争

富士吉田市が主催する全行程21Km、標高差3006mを駆け上る。1948（昭和23）年に始まった。市役所前から、山頂まで、5合目まで、或いは浅間神社までのコースがある。通常、吉田口の登山の場合には9時間程度を要するが、2時間半から3時間で山頂までゴールするという。

照井3尉の記録を紹介しよう。4時間13分35秒である。（認定証を見せて貰ったので、正確である。）奥さんと義理のご両親に良い格好をしたかったのが参加の動機だとは本人の言である。因みに優勝タイムは、2時間47分（22回大会）。

自衛隊はこの競争に通信及び救護の協力をしており、自衛官も個人の資格で、2～30名が参加している。栄えある第一回大会の優勝者は、早川氏で、記録は3時間10分24秒であった（賞状のコピーによる）。時代背景を物語るのが、早川氏に送られた米軍からの賞状である。バートン、E、ステットソン中佐（山梨軍政部長）が早川氏に贈った。

当時の主催は山梨時事新聞社と山梨陸上競技協会であった。知る人ぞ知るという話がある。頂上男子の優勝者には内閣総理大臣の私印が押印された賞状が授与されるのだそうである。それを官邸に出かけて貰ってくる担当者の緊張は一方ならぬものがあるという。

今年（2000）は、第53回大会であり、富士吉田市市制施行50周年を祈念して実施された。一地方新聞社が企画した登山競争が半世紀に亘って行われたのである。今年の山頂男子は悪天候により5合目で打ち切られた。

### 2 富士登山駅伝競走

御殿場市陸上競技会が主催する御殿場市陸上競技場から御殿場登山道、山頂往復（全行程約47Km、標高差約3200m）を1チーム6人で襷をつなぐ駅伝である。

#### ● 経緯

1912（大正1）年7月、日本は初めてオリンピックに参加した。マラソン選手として

出場した金栗四三氏 や時事新報の記者山口六朗次氏によって富士登山競争が提唱・企画され、翌13年7月25日第一回富士登山競争が行われた。

以後、この登山競争は1923（大正12）からは駅伝形式に改められ、1938（昭和13）年まで行われたが、戦局急となり中止になった。1951（昭和26）年に復活、1954（昭和29）年再び中止になった。そして、1976（昭和51）年に復活されて、現在に至っている。2000（平成12）年で、25回目になる。斯様に復活そして中止、復活と何度もなく翻弄された駅伝競走ではある。

## ● トピックス

第25回大会のパンフレットから、幾つかのトピックスを紹介しよう

### ① 初めての富士登山競争

歩いてでも富士山頂上を極めるのは苦しい。それを駆け上がるという、夢にも思わないことが企画されつつあった。大正2年7月のことである。時事新報社が主催し、出発点は御殿場口太郎坊、決勝点は富士山頂と決められた。

この御殿場口は砂走りで登りにくい上、温度差20度以上、8合目からは傾斜35度以上の急勾配であり、稀薄な酸素にも悩まされるという、実に過酷な状況下でのレースである。

この大会には全国から1,142人の応募があり、その中から14名の選手が選ばれた。このときのスターターは金栗四三、優勝したのは、伊達甚太郎で、頂上まで2時間38分で駆け上った。彼は人力車夫をしながら商業学校に通う苦学生であった。

### ② 戦後の幕開け

終戦から数年を経て、食べるに精一杯だった人たちの中からも、朝な夕なに仰ぎ見る富士山に、かつての登山駅伝を夢見るゆとりが生まれていた。昭和26年8月12日、全国マラソン連盟が主催し、読売新聞社等が後援して、戦後の第一回富士登山競争大会が開催された。御殿場駅前での開会式では、金栗四三審判長が「世界に誇る富士の峰にオリンピックの夢をのせ、敢闘を祈る。」との挨拶があった。29年には全国マラソン連盟によるオリンピック合宿が併せて行われる等、隆盛に向かうかと思われたこの大会も大会運営の困難さゆえに昭和30年を最後に立ち消えとなっていった。

（以上2件富士登山駅伝小史 パンプ45及び46p）

## ● 自衛隊の関わり

板妻駐屯地に所在する第34普通科連隊が本駅伝を支援している。

復活後の優勝チームには自衛隊チームが名前を連ねている。富士学校富士教導団隷下の滝ヶ原自衛隊が10回、第一空挺団が6回であり、空挺団6連覇、滝ヶ原5連覇であり、昨年本年と滝ヶ原が連覇している。今年の参加チーム数は、95個であるが、その内19個が自衛隊関係である（防衛大含む）。富士学校からは滝ヶ原をはじめとして戦車教導隊や特科教導隊が参加し、健闘している。

## ● 本駅伝大会は復活後当初は金栗四造三杯、15回大会からは御殿場にゆかりの秩父宮賜杯大会とし、20回大会からは秩父宮記念の大会となっている。秩父宮様と本大会との関わりについては、教えて頂いたが正確を期したいので、割愛させて頂く。

## ● 本大会は、テレビ静岡をキーステーションとしてフジテレビ系列で中継録画放映されている。留萌自衛隊が2位に食い込んだときは留萌市長が感激し、祝勝会を開催された。（小生が旭川勤務時代）